

店頭から
「こんにちは」

第16回

からだが教える異変を 放っておくことなかれ

取り返しがつかなくなるケースも…



宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士 薬剤師

みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール / 1976(昭和51)年、東北薬科大学卒業。78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。87(同62)年、薬学博士学位。
地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

医療従事者の私たちですと、今、起こっている症状には何が隠されているか、大体予想できるものです。

しかし、一般の方には分からないことが多く、相談するところもないという現実が――。

ピンと来た結果…

70歳くらいの女性が、朝早く相談に来られました。

「夜中に不思議なことがあったんです。何だか手が動かなくなつたような気がして。夢だったのか、どうだか、朝起きたら何ともなかったから、一体何だったのだろうと…」

その方は、「あまり重大なことではなくて、申しわけないけれど」と話されました。

ただ、私にはピンと来たのです。そこで――。

「一過性の脳梗塞かもしれないから、すぐに脳外科に行つ

てください」

そう、少し強く勧めたものです。結果、うちに来られたその足で病院へ行き、検査を受け、細い血管に軽い脳梗塞が見つかりました。

けれども、処置が早かったので、少しの入院ですみ、後遺症もまったくなく、今も元気にされています。

それ以来、新鮮が獲れるころには、〆はらこ飯〆を、山菜の季節には、〆山菜〆ごはん〆を持つてきてくださるのです。

とつても料理が上手な方で、家内も、「Sさんの味を後世に残すため、今度作ると

きには私も手伝いに行つて覚えるから」といっています。

感心したとつさの判断

さて、認知症のお母様と2人暮らしの娘さんがいらつしゃいます。

その娘さん、急に具合が悪くなり、意識がもうろうとしながら救急車を呼び、玄関の鍵を開けた後に倒れてしまいました。救急車が到着したときには意識不明で、病院に運ばれたのです。

実は、くも膜下出血の手術をして、一命を取りとめたのだとか。今では後遺症もなく、何ごともなかったかのように暮らしておられます。

この方は、自分の身だけでなく、お母様の命も守らな

ければという思いから、とつさの判断ができたのでしょう。「もし、自分だったら、そんなことができただろうか」と感心してしまいました。

からだに異変が出そうなき、または異変が起こりつつある現在進行形の場合、私たちのからだは何らかの形で知らせようと、バイタルサイン(※)を発信します。ですから、「いつもと違う」と感じるこ

とがあれば、それを無視することなく、「からだが教えてくれているのかもしれない」と思ってください。そして、迷わず医療機関で受診を。忙しいとか、面倒くさいとか思つて放つておくと、取り返しがつかないことになるかもしれませんよ。

(※) バイタルは生命、サインは兆候のこと。つまり、体温や呼吸・脈拍や血圧などに現れる、生きている状態を示す指標といえます。